



代表取締役
深澤 知博氏

大同出版紙業株式会社

本社：北海道帯広市西7条南6丁目2番地
TEL.0155-23-5107
工場：北海道河東郡音更町西3線14-12
(音更町IC工業団地)
創立：1943年(昭和18年)
代表取締役：深澤 知博
問い合わせアドレス：info@daito-pr.jp



LED-UV を最大限活かした生産・営業体制へ

昭和18年に創立した大同出版紙業株式会社は、十勝エリアの官公庁や地元企業に、チラシ、ポスター、広報誌など幅広い商業印刷物の企画・デザインから、印刷、製本、配送までワンストップで提供する地域密着型の総合印刷会社だ。乾きづらい用紙への印刷が増える中で、お客様への納期を守るために、2017年春にA全判4色機RMGT 920ST-4+LED-UVを導入した。将来の展開を、代表取締役の深澤 知博氏にお聞きした。

LED-UV の効果は抜群だった!

取材が始まるなり深澤社長は即乾効果をこう表わした。「LED-UV 機導入後しばらくして選挙があり、ユボ紙を使った選挙ポスターを短納期で納める仕事を受けた。今までは会議室の床にまで印刷物を並べて乾燥させてきたが、それでも乾燥不十分に伴う不良に苦しめられてきた紙だった。それがLED-UV機によって、以前の苦勞が嘘のように仕事がすぐに片付いた」(深澤社長)。それを受けた吉野取締役は「ユボ紙の選挙用紙も今までは、役所の方が来られて二日ばかりで、枚数確認と仕上がり検品をしてきた。それがLED-UV機になると、同じ日のうちに数時間で終わってしまった」。

従来メインだった仕事が減少していく中で、新規開拓に取り組むと、風合いのよいマット系の紙や機能性が高いユボ紙など乾きづらい紙が避けては通れない。深澤社長が「これ(LED-UV機)を一度使ったら元に戻れない。油性印刷をもう一回やられて言われたら、いやだよな?」



A全判4色機RMGT 920ST-4+LED-UV

と冗談めかして尋ねると、今まで油性印刷で乾燥と格闘してきた佐藤工場長は「いやです」と強い口調で即答した。

その理由について詳しく尋ねると、「LED-UVになって、乾燥待ちの時間が減ったのがとにかく大きい。当社は官公庁の仕事が多いので例年3月が忙しい。新台導入前の3月には数十時間の残業を強いられたが、今年の3月はほとんどゼロになった。まさに働き方改革だった。さらに、パウダーを使わないので、機械のメンテナンス時間も大幅に削減できた」(佐藤工場長)。確かに、工場を中心に据えられた920ST-4+LED-UVには少しの埃もなくきれいに磨かれている。「裏付きや汚れが減って、印刷工程での事故率が急

減した。さらに同じフロアにある製本工程では、乾燥不良に伴うひっかけなどの事故も減り、最近クレーム伝票を見なくなった」と、深澤社長は後工程でのLED-UV効果にも言及した。

取締役
営業部担当、
製造部部长
吉野 昌樹氏



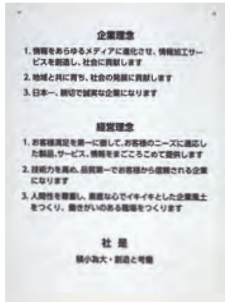
リョービと三菱の良さが融合

深澤社長は「以前勤めていたインキメーカーで三菱の印刷機を取り扱うことが何度となくあった。その中で、三菱機の性能、それを生み出す技術力に対して敬意を抱いてきた。その後(創業者である父に乞われて)この会社に入った。LED-UVなどの省電力UVが普及してくるのを見て、『次に入れる



WORKS

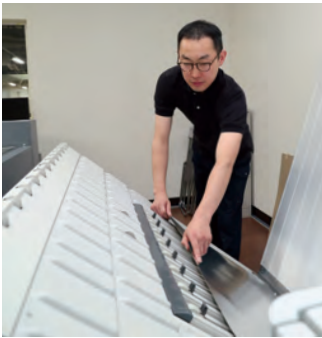
実績紹介



壁に掲げられた企業理念



十勝エリアで使うチラシ、ポスター、広報誌などを幅広く手掛ける。企業理念に掲げたとおり、地域との共生、社会発展への貢献を目指す。



自分が使う刷版をオペレーター自ら出力する。幅広いポストプレス設備で地域の需要に応える。



印刷機はLED-UV』と心に決めていた。A全の920シリーズ(現RMGT9シリーズ)を有するリョービが、その技術力に敬意を抱いてきた三菱と合弁会社を設立したのは当社にとってタイミングが良かった。リョービと三菱の良い所が合わさったことで決断した」と導入経緯を振り返る。RMGT9シリーズには最大用紙幅が920mmのタイプと940mmのタイプとがある中で、「自社の仕事内容を分析して、A4サイズが8面ジャストサイズ入る920mm幅のRMGT920を選んだ。刷版サイズ違いによるコスト削減効果も大きい」(深澤社長)。「時間を掛けて機械を選定したが、RMGTさんにはその過程で印刷機の勉強会や社内のデータ採取などで、買ってものにも並々ならぬ協力してもらったことは忘れられない」と深澤社長は高く評価する。

「新台を入れる前にも、小型機やナンバー・マシン入れ専用機でRMGTさんとは取引があった。メーカーのサービス拠点があ

製造部次長
音更工場工場長
佐藤 正志氏

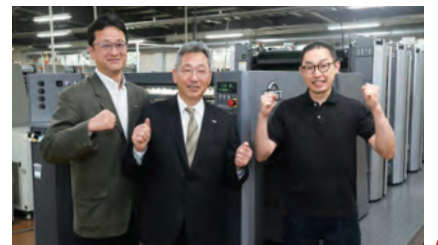


る。他のメーカーさんと違って、RMGTさんだと近くにある別の印刷会社を訪問する足で立ち寄って診てもらったり、コールしてから来てくれるまでの時間も早かったりと、本当にありがたい」と刷版出力から印刷、後工程まで預かる佐藤工場長が振り返る。

道東初のLED-UV機を活かして

2017年3月に既設機3台と入れ替える形で、RMGT920ST-4+LED-UVに集約して1年あまりが経過した。「かゆいところに手が届く」サービスを実践する同社は、4色に加えて2色の仕事も積極的に受けている。「3台から1台へ統廃合したが、生産能力と生産性の両面で期待どおりの効果を上げている」(深澤社長)。後工程においては、製本を頼める仲間が近隣に少ないこともあり、幅広い後加工や製本を内製でこなしている。プリプレス工程においては、同じ時期に完全無処理版に対応するCTPに入れ替えて、生産工程全体の効率化を進めた。「完全無処理版、LED-UV機を中心に据えた体制へ切り替えて、生産効率、短納期、環境対応など基礎を固めた1年目だった」(深澤社長)。今後の展開について「LED-UV機によ

て当社の営業は(納期に対する考え方が)いわばPOD感覚になり、短納期での納品が当たり前になった。今までは生産面のメリットを突き詰めてきたが、これからはLED-UV機のメリットを活かして市場開拓を目指す。道東初のLED-UV機の特長を活かして、道東で納期が急ぐ仲間内仕事を取りにいきたいし、帯広は農業が強いので農業事業者との連携を考えたい」と、待望の武器を手に入れた深澤社長は抱負を語る。



リョービ MHI グラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部 札幌支店 佐藤 道久

道東一号機のLED-UV機が導入から1年が経ち、順調に稼働していることを大変嬉しく思います。新規顧客開拓活動を積極的になさっているので、お役に立つ情報をこれからもお届けしていきたいと考えています。

